

5. 岡山大学理学部履修科目の上限設定等に関する内規

制定	平成16年	4月29日
改正	平成17年	12月8日
改正	平成21年	6月3日
改正	平成22年	3月3日
改正	平成25年	3月6日
改正	平成26年	3月5日

(趣旨)

第1条 この内規は、岡山大学理学部規程（平成16年岡大理規程第1号）第13条の規定に基づき、岡山大学理学部における履修科目の上限設定等について定める。

(履修科目の上限)

第2条 履修科目として登録できる単位数の上限は、教養教育科目について、1年間28単位とし、次の各号に掲げるものについては、単位数の上限から除くものとする。

- 一 補習授業（初等数学，初等物理学，初等化学，初等生物学）
- 二 入学前の既修得単位を本学部において修得したもものとして単位認定された科目
- 三 外部検定試験等により単位認定された科目

(履修上限設定の例外)

第3条 前条の規定にかかわらず、グローバル人材育成特別コース履修学生については、履修科目の上限を超えて登録することができる。

(雑則)

第4条 この内規の定めるもののほか、特別な事情がある場合は、学科長会の議を経て、履修科目の上限を変更することができる。

附 則

この内規は、平成16年4月29日から施行し、平成14年度入学者から適用する。

附 則

この内規は、平成18年4月1日から施行し、平成14年度入学者から適用する。

附 則

この内規は、平成22年4月1日から施行し、平成15年度入学者から適用する。

附 則

この内規は、平成25年4月1日から施行し、平成17年度入学者から適用する。

附 則

この内規は、平成26年4月1日から施行し、平成26年度入学者から適用する。

6. 岡山大学理学部表彰内規

平成23年 3月 9日
学 部 長 裁 定

(目的)

第1条 岡山大学理学部（以下「理学部」という。）における自然科学（理学）教育の充実・発展を図るため、「学業及び人物の優れた学生」並びに「自然科学（理学）教育に顕著な業績をあげた職員」等を表彰することを目的とする。

(表彰)

第2条 表彰は、「理学部長賞」、「第2年次終了時優秀者賞」及び「教育貢献賞」とする。また、「理学部長賞」及び「教育貢献賞」については、表彰状および記念品を授与するものとし、「第2年次終了時優秀者賞」については、表彰状を授与する。

(理学部長賞)

第3条 理学部長賞は、理学部を卒業する学生のうちから学業及び人物の優れた者に授与する。

- 2 候補者は、3月上旬までに理学部各学科ごとに1名を理学部長に推薦する。
- 3 選考は、原則として3月定例学科長会で行う。
- 4 授与日は、3月卒業式当日とする。

(第2年次終了時優秀者賞)

第4条 第2年次終了時優秀者賞は、理学部第2年次を終了した学生のうちから成績優秀者に授与する。

- 2 候補者は、3月末までに理学部各学科ごとに若干名を理学部長に推薦する。
- 3 選考は、原則として4月定例学科長会で行う。
- 4 授与日は、理学部長が定める。

(教育貢献賞)

第5条 教育貢献賞は、理学部に勤務する職員に授与する。

- 1 候補者は、各学科、附属臨海実験所、附属界面科学研究施設、附属量子宇宙研究センター及び職員が理学部長に推薦（自薦を含む。）する。
- 2 前項の推薦のあったときは、別に定める選考基準により学科長会が選考を行う。
- 3 授与日は、理学部長が定める。

(表彰状)

第6条 表彰状は、別紙のとおりとする。

附 則

この内規は、平成23年3月9日から施行する。

7. 岡山大学理学部における他の大学又は短期大学の 専門教育科目履修に関する内規

平成16年4月29日
学 部 長 裁 定

(趣旨)

第1条 この内規は、岡山大学理学部規程（平成16年岡大理規程第1号）第18条第2項の規定に基づき、理学部学生が他の大学（外国の大学を含む。）又は短期大学（外国の短期大学を含む。）の専門教育科目の履修（以下「他大学等履修」という。）に関して必要な事項を定めるものとする。

(出願手続)

第2条 理学部学生が、他大学等履修を希望するときは、次の各号に掲げる書類を提出することにより、理学部長に願い出るものとする。

- 一 他大学（短期大学）授業科目履修願（別紙様式）
- 二 その他必要とする書類

(許可)

第3条 他大学等履修の許可は、教授会・協議会の議を経て行う。

(単位の認定)

第4条 他大学等履修で修得した単位は、30単位を限度として教授会・協議会で認定のうえ卒業要件単位として取り扱うことができる。

(その他)

第5条 この内規の実施に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この内規は、平成16年4月29日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

8. 卒業要件について

I 卒業要件単位

科目区分		学科	全 学 科
教 養 教 育 科 目			3 6
専門教育科目	専門基礎科目		1 2
	専 門 科 目		8 0
卒 業 要 件 単 位			1 2 8

II 教養教育科目（全学科共通）

科 目 区 分		授 業 科 目	卒業要件単位	
			必修	選択必修
ガイダンス科目		自然科学入門	2	
主 題 科 目	現代の課題	「現代の課題」グループ科目	2	1 4 〔注4〕
	人間と社会	「人間と社会」グループ科目	2	
	健やかに生きる	「健やかに生きる」グループ科目	2	
	自然と技術	「自然と技術」グループ科目	2	
個 別 科 目	人文・社会科学	人文・社会科学系科目		
	自然科学	自然科学系科目〔注1〕		
	生命・保健科学	健康・スポーツ科学 スポーツ演習〔注2〕 (する・みる・支える)		
	情報科学	情報処理入門 (情報機器の操作を含む)		
外 国 語 科 目	英 語	総合英語 1	1	
		総合英語 2	1	
		総合英語 3	1	
		総合英語 4	1	
		総合英語 5〔注3〕	4	
		プレ上級英語		
		上級英語		
		英語特別演習 1		
		英語特別演習 2		
		ドイツ語		
	フランス語			
	中国語			
	韓国語			
	ロシア語			
	スペイン語			
	イタリア語			
	日本語（留学生用）			
卒 業 要 件 単 位			2 2	1 4
			3 6	

〔注1〕 補習授業科目は、卒業要件単位に算入しない。

〔注2〕 スポーツ演習は、2単位まで卒業要件単位に含めることができる。

〔注3〕 外部検定試験等の結果により単位を認定することができる。

〔注4〕 英語は、プレ上級英語、上級英語及び英語特別演習のみ選択必修に含めることができる。

III 専門教育科目

理学部規程別表第1（21ページ～）を参照のこと。

9. 課題研究の履修要件について(4年次進級要件)

数 学 科

- (1) 卒業要件単位を100単位以上修得していること。
- (2) 専門基礎科目の必修科目を8単位修得していること。
- (3) 3年次までの専門科目の必修科目(数理科学演習を除く)を16単位修得していること。
- (4) 数学科1, 2年次開講の専門科目(必修を除く)の中から合計8単位以上を修得していること。

物 理 学 科

- (1) 卒業要件単位を102単位以上修得していること。
- (2) 「情報物理学実験Ⅰ」, 「情報物理学実験Ⅱ」, 「物理学実験」を修得していること。

※ ただし, 第3年次編入学学生については, 上記(2)のうち, 「情報物理学実験Ⅰ」, 「情報物理学実験Ⅱ」を修得したものとみなします。

化 学 科

- (1) 卒業要件単位を100単位以上修得していること。
- (2) 3年次までの専門科目の必修科目をすべて修得していること。
- (3) 専門科目〔選択必修, 選択, 他学科開講科目〕を32単位以上修得していること。

※ ただし, 第3年次編入学学生については, 以下の要件を適用する。

- (1) 卒業要件単位を94単位以上修得していること。
- (2) 3年次までの専門科目の必修科目を23単位以上修得していること。
(ただし, 実験はすべて修得していること。)
- (3) 専門科目〔選択必修, 選択, 他学科開講科目〕を 32単位以上修得していること。

生 物 学 科

- (1) 卒業要件単位を100単位以上修得していること。
- (2) 教養教育科目の必修科目22単位を修得していること。
- (3) 3年次までの専門科目の必修科目をすべて修得していること。

※ ただし, 岡山大学協定校への留学(EPOK等)によって3年次後期必修科目を履修できなかった学生については, 3年次後期必修科目を4年次に履修することを認める。この場合, 課題研究は生物学科で行うものとし, 履修を許可された教員のもとで課題研究を行う。

地 球 科 学 科

- (1) 卒業要件単位を100単位以上修得していること。
- (2) 2年次までの専門科目の必修科目をすべて修得していること。
- (3) 3年次までの専門科目の選択必修科目のうち, 実験・実習科目5単位以上と実験・実習科目を除く選択必修科目26単位以上を修得していること。(ただし, 地質調査法実習を除く。)
- (4) 教養教育科目の外国語科目を10単位以上修得していること。

※ ただし, 第3年次編入学学生については, 上記(2)のうち「地球科学ゼミナールⅢ」は, 課題研究の履修要件に含めない。

転学科を伴わない他学科の「課題研究」履修条件

1. 内容・特色

入学後新しい学問分野に目覚め、自分の興味が深まるに従って、その分野の授業科目を学科の枠にとらわれず自分のメニューで選んで履修し、将来その分野で積極的に研究をする希望が強くなったときは、4年次で他学科の教育・研究分野において志望する担当教員のもとで「課題研究」を行うことができ、更にその分野の大学院に進学することも可能となります。

2. 定員

各学科とも学生定員の10%以内

3年次終了時に、各学科で希望者の中から選抜し、履修を認めます。

3. 他学科の「課題研究」履修許可条件

所属学科の「課題研究」を履修する資格を得たもので、かつ他学科の「課題研究」を担当する教員（臨海，界面を含む）の同意を得たものに限り履修できます。

ただし、各教員が受け入れる本ケースの「課題研究」履修学生は1名を超えない。

4. 注意事項

実験・実習等、授業科目によっては、他学科学生は限られた少人数のみ履修が可能な場合もあるので、志望する科目履修（課題研究を含む）に関し、担当教員に受入れ基準等をできるだけ早い段階で尋ねておくこと。

10. 専門教育科目 配当年次別授業科目一覧

○数 学 科

科目区分	年次	授 業 科 目	単 位		
			必修	選択必修	選択
専門基礎科目	1	微分積分学Ⅰ	2		
		微分積分学Ⅱ	2		
		線形代数学Ⅰ	2		
		線形代数学Ⅱ	2		
		現代数学要論Ⅰ		2	
		基礎物理学Ⅰ		2	
		基礎物理学Ⅱ		2	
		一般化学		2	
		基礎有機化学		2	
		基礎生物学Ⅰ		2	
		基礎生物学Ⅱ		2	
		基礎地球科学A		2	
		基礎地球科学B		2	
専門教育科目	1	数学演義Ⅰ		2	
		数学演義Ⅱ		2	
		数学演義Ⅲ	2		
	2	微分積分学Ⅲ	2		
		代数学基礎A	2		
		代数学基礎B	2		
		幾何学基礎A	2		
		解析学基礎A	2		
		情報処理論			2
		微分積分学Ⅲ演習		2	
	代数学基礎A演習		2		
	代数学基礎B演習		2		
	幾何学基礎A演習		2		
3	代数学		2		
	代数学演習		3		
	幾何学Ⅰ		2		
	幾何学Ⅱ		2		
	幾何学演習		3		
	解析学Ⅰ		2		
	解析学Ⅱ		2		
	解析学演習		3		
	離散数学Ⅰ			2	
	離散数学Ⅱ		2		
	情報数学		2		
	確率・統計		2		
	幾何学基礎B	2			
解析学基礎B	2				
幾何学基礎B演習		2			
解析学基礎演習		2			
数理学演習	3				
4	代数学特論Ⅰ		2		
	代数学特論Ⅱ		2		
	幾何学特論Ⅰ		2		
	幾何学特論Ⅱ		2		
	解析学特論Ⅰ		2		
	解析学特論Ⅱ		2		
	課題研究	10			

- ◆卒業要件の詳細については、理学部規程別表第1(21ページ)にて必ず確認すること。
- ◆課題研究履修要件(4年次進級要件)の詳細については、31ページにて確認すること。

○物 理 学 科

科目区分	年次	授業科目	単位		
			必修	選択必修	選択
専門基礎科目	1	微分積分学Ⅰ		2	
		微分積分学Ⅱ		2	
線形代数学Ⅰ			2		
線形代数学Ⅱ			2		
現代数学要論Ⅰ			2		
現代数学要論Ⅱ			2		
一般化学			2		
基礎有機化学			2		
基礎生物学Ⅰ			2		
基礎生物学Ⅱ			2		
基礎地球科学A			2		
基礎地球科学B			2		
基礎化学実験			1		
基礎生物学実験			1		
基礎地球科学実験		1			
専門教育科目	1	物理科学入門			2
		物理数学1			2
		情報物理学実験Ⅰ	2		
		力学1		2	
		力学2		2	
		電磁気学Ⅰ		2	
		力学演習1		1	
		力学演習2		1	
	電磁気学演習1		1		
	2	電磁気学Ⅱ		2	
		量子力学Ⅰ		2	
		量子力学Ⅱ		2	
		熱力学		2	
		電磁気学演習2		1	
		量子力学演習1		1	
		相対論入門			2
		力学3			2
	電磁気学Ⅲ			2	
	物理数学2			2	
	情報物理数学			2	
	振動波動			2	
	情報物理学実験Ⅱ	2			
	3	統計力学Ⅰ		2	
		統計力学Ⅱ		2	
		量子力学演習2		1	
		統計力学演習1		1	
		統計力学演習2		1	
		量子力学Ⅲ			2
相対論的量子力学				2	
コンピュータ物理学1				2	
コンピュータ物理学2				2	
固体物理学1				2	
固体物理学2			2		
素粒子原子核物理学1			2		
原子物理学			2		
相対性理論			2		
物理学実験	4				
4	固体物理学3			2	
	素粒子原子核物理学2			2	
	情報物理学課題研究	10			

- ◆卒業要件の詳細については、理学部規程別表第1(22ページ)にて必ず確認すること。
- ◆課題研究履修要件(4年次進級要件)の詳細については、31ページにて確認すること。

○化学科

科目区分	年次	授業科目	単位		
			必修	選択必修	選択
専門基礎科目	1	基礎微分積分学Ⅰ		2	
		基礎微分積分学Ⅱ		2	
		現代数学要論Ⅰ		2	
		現代数学要論Ⅱ		2	
		基礎物理学Ⅰ		2	
		基礎物理学Ⅱ		2	
		基礎生物学Ⅰ		2	
		基礎生物学Ⅱ		2	
		基礎地球科学A		2	
		基礎地球科学B		2	
		基礎物理学実験		1	
		基礎生物学実験		1	
		基礎地球科学実験		1	
		専門教育科目	1	化学英語	2
有機化学Ⅰ	2				
有機化学Ⅱ	2				
基礎化学実験	1				
化学数学Ⅰ					2
化学数学Ⅱ					2
2	物理化学Ⅰ		2		
	物理化学Ⅱ			2	
	量子化学Ⅰ		2		
	量子化学Ⅱ			2	
	有機化学Ⅲ			2	
	有機化学Ⅳ			2	
	有機機器分析			2	
	有機反応機構			2	
	無機化学Ⅰ		2		
	無機化学Ⅱ			2	
	錯体化学Ⅰ			2	
	分析化学Ⅰ		2		
	分析化学Ⅱ			2	
	分析化学Ⅲ			2	
3	物理化学Ⅲ		2		
	物理化学Ⅳ		2		
	量子化学Ⅲ		2		
	量子化学Ⅳ		2		
	有機化学Ⅴ		2		
	有機化学Ⅵ		2		
	有機合成化学		2		
	無機化学Ⅲ		2		
	無機化学Ⅳ		2		
	錯体化学Ⅱ		2		
	固体化学Ⅰ			2	
	固体化学Ⅱ			2	
4	化学実験Ⅰ	6			
	化学実験Ⅱ	6			
4	化学ゼミナールA	2			
	化学ゼミナールB	2			
	課題研究	8			

◆卒業要件の詳細については、理学部規程別表第1(23ページ)にて必ず確認すること。

◆課題研究履修要件(4年次進級要件)の詳細については、31ページにて確認すること。

○生物学科

科目区分	年次	授業科目	単位		
			必修	選択必修	選択
専門基礎科目	1	基礎微積分学Ⅰ		2	
		基礎微積分学Ⅱ		2	
		現代数学要論Ⅰ		2	
		現代数学要論Ⅱ		2	
		基礎物理学Ⅰ		2	
		基礎物理学Ⅱ		2	
		一般化学		2	
		基礎有機化学		2	
		基礎地球科学A		2	
		基礎地球科学B		2	
		基礎物理学実験		1	
		基礎化学実験		1	
		基礎地球科学実験		1	
専門教育科目	1	基礎生物学A	1		
		基礎生物学B	1		
		基礎生物学C	1		
		分子生物学Ⅰ	2		
		植物生理学	2		
		細胞生物学Ⅰ	2		
		生物学特論			1
	2	細胞生物学Ⅱ			2
		生化学Ⅰ	2		
		生化学Ⅱ			2
		遺伝学Ⅰ	2		
		遺伝学Ⅱ			2
		発生生物学Ⅰ	2		
		植物細胞生理学			2
		動物行動学			2
		系統分類学			2
		神経生物学Ⅰ	2		
		生体制御学Ⅰ	2		
		分子遺伝学Ⅰ	2		
		分子遺伝学Ⅱ			2
	生物学実験A	2			
	生物学実験B	2			
	臨海実習Ⅰ		2		
	3	発生生物学Ⅱ			2
		動物生理学			2
		分子生物学Ⅱ			2
		生体制御学Ⅱ			2
生体制御学Ⅲ				2	
進化生物学				2	
細胞生物学Ⅲ				2	
生物物理学				2	
神経生物学Ⅱ				2	
生物英語演習		1			
生物学ゼミナールA		1			
生物学実験C	3				
生物学実験D	3				
臨海実習Ⅱ		2			
臨海実習Ⅲ		2			
4	生物学ゼミナールB	2			
	課題研究	10			

◆卒業要件の詳細については、理学部規程別表第1(24ページ)にて必ず確認すること。

◆課題研究履修要件(4年次進級要件)の詳細については、31ページにて確認すること。

○地球科学科

科目区分	年次	授業科目	単位		
			必修	選択必修	選択
専門基礎科目	1	基礎微積分学Ⅰ		2	
		基礎微積分学Ⅱ		2	
		現代数学要論Ⅰ		2	
		現代数学要論Ⅱ		2	
		基礎物理学Ⅰ		2	
		基礎物理学Ⅱ		2	
		一般化学		2	
		基礎有機化学		2	
		基礎生物学Ⅰ		2	
		基礎生物学Ⅱ		2	
		基礎物理学実験		1	
		基礎化学実験		1	
		基礎生物学実験		1	
		専門教育科目	1	地球科学ゼミナールⅠ	2
現代地球科学Ⅰ	2				
現代地球科学Ⅱ	2				
地球情報処理論	2				
基礎地球科学実習	1				
2	地球科学ゼミナールⅡ		2		
	地球科学ゼミナールⅢ		2		
	地球物理学演習				1
	鉱物結晶学実験			1	
	地質図学実験			1	
	顕微鏡岩石学実験Ⅰ			1	
	顕微鏡岩石学実験Ⅱ			1	
	鉱物結晶学			2	
	基礎岩石学			2	
地球発達史		2			
固体地球物理学		2			
宇宙と地球の化学		2			
地球化学熱力学		2			
大気物質循環論		2			
地球惑星内部物理学		2			
生物地球化学		2			
地球惑星システム科学		2			
専門科目	3	変成論		2	
		地球物質反応論		2	
		地球内部物性論		2	
		地震波動論		2	
		大気物理学		2	
		地球統計学		2	
		地球流体力学		2	
		火成論		2	
		地球変動論		2	
		地形学		2	
		地球惑星物理化学		2	
		無機地球化学		2	
		沿岸の地球科学		2	
		微量元素・同位体地球化学		2	
地質調査法実習		4			
地球科学巡検A			1		
地球科学巡検B			1		
地球科学ゼミナールⅣ	2				
地球物理学実験		1			
地球化学実験		1			
測量地理情報学実習		1			
3, 4	地球科学特講Ⅰ			2	
	地球科学特講Ⅱ			2	
4	地球科学輪講	4			
	課題研究	6			

◆卒業要件の詳細については、理学部規程別表第1(25ページ)にて必ず確認すること。

◆課題研究履修要件(4年次進級要件)の詳細については、31ページにて確認すること。

○共通科目

科目区分	年次	授業科目	単位	備考
専門科目 (関連)	1	天文学入門	1	
	2~3	就業体験実習(インターンシップ)	2	
	3	自然系博物館実習	3	学芸員資格取得者用
	2	フロンティアサイエンティストリテラシー	1	フロンティアサイエンティスト特別コース開講科目
	2	先端科学実習	1	フロンティアサイエンティスト特別コース開講科目
	3	先取りプロジェクト研究	5	フロンティアサイエンティスト特別コース開講科目 ※卒業要件外

◆卒業要件の詳細については、理学部規程別表第1(26ページ)にて必ず確認すること。

1 1. 他学部開講科目の受講について

他学部開講科目の受講を希望する学生は、所定の「他学部科目履修許可願」を各学科教務委員に提出しなければなりません。提出された他学部科目履修許可願に基づき、各学科において卒業要件単位としての算入の可否を決定し、各学科の定める上限単位までは、卒業要件単位として算入することができる場合があります。

また、各学科において、予め卒業要件単位への算入基準等を以下のとおり定めていますので、各学科の指示により履修してください。

【卒業要件単位への各学科の算入基準等】

学 科	卒業要件単位に算入可能な他学部開講科目	算入上限 単位数
数学科	<ul style="list-style-type: none"> ●教育学部開講の「教職に関する科目」 (※他学部科目履修許可願の提出は不要です。) ●他学部科目履修許可願を提出した科目 	1 4
物理学科	<ul style="list-style-type: none"> ●理学部で開講されている科目の内容と重複しない物理学及び物理学に関連する分野の科目 (例：流体力学に関する科目、エレクトロニクスに関する科目等) 	1 0
化学科	<ul style="list-style-type: none"> ●理学部で開講されている科目の内容と重複しない化学及び化学に関連する科目 	1 0
生物学科	<ul style="list-style-type: none"> ●生物学に関連する科目 ●教育学部開講の「教職に関する科目」 	1 0
地球科学科	<ul style="list-style-type: none"> ●地球科学に関連する科目 ●教育学部開講の「教職に関する科目」 	1 0

12. 複合領域科学コース

1 定員

各学科学生定員の20%程度以内

2 内容・特色

幅広い分野の授業科目を履修することにより、複合的・学際的な学問分野に対応、進出できる学生を育成することを目的とする。

各学科の開講する専門科目を2学科以上にわたって修得し、履修を許可された教員のもとで課題研究を行い卒業する。

3 コース履修要件

次の各号のいずれにも該当する者とする。

(1) 2年次終了時点での全学GPA（累積）が2.80以上である者

(2) 本コースの履修を申請し、教務委員会において許可された者

4 卒業要件

本コースの履修が許可された場合は、以下の卒業要件が適用されることとなる。

科目		所属学科	数学科	物理学科	化学科	生物学科	地球科学科
教養教育科目計			36単位（理学部所定の卒業要件を満たすこと）				
専 門 教 育 科 目	専門基礎科目計		12単位（所属学科所定の卒業要件を満たすこと）				
	専 門 科 目	2学科以上 にわたって 修得する こと	所属学科専門科目（課題研究及び集中講義を除く。） 12単位以上				
			他学科専門科目（課題研究及び集中講義を除く。） 12単位以上				
	課題研究		履修を許可された研究室の教員が担当する学科において 定められた単位数とする。				
	専門科目計		理学部開講科目66単位以上を含む80単位				
卒業要件単位計			128単位				

5 「課題研究」履修資格

課題研究を履修することができる者は、3年次終了時に上記4に掲げる卒業要件単位のうち、102単位以上を修得している者とする。

ただし、所属学科以外で課題研究を履修を希望する場合は、希望する研究室の教員の承諾を得るものとする。（この場合、各教員が受け入れる本コースの学生は2名までとする。）

6 注意事項

(1) 2年次後期までは、所属学科のカリキュラムに従って履修するが、複合領域科学コース希望者は、1, 2年次においても可能な限り、本コースを視野に入れて授業科目を履修することが望ましい。

(2) 実験・演習等、授業科目によっては、他学科学生の履修が制限される場合もあるため、授業科目（課題研究を含む。）の履修に関し、事前に担当教員に受入れ基準等を確認しておくこと。

(3) 本コースの辞退は、願出に基づき、教務委員会において適当と認められた場合に許可する。なお、辞退が許可された場合、所属学科のカリキュラム及び卒業要件が適用されることとなる。

(4) 本コースの履修が許可された者は、半期毎（各学期開始時）に履修報告書を作成しなければならない。

13. フロンティアサイエンティスト特別コース

1 定員

理学部入学定員の10%程度

2 目的

広範囲な自然科学の教養，自立した倫理観と判断力，広く社会へ発信できるコミュニケーション能力を持ち，新領域や学際領域も含む科学の最前線で活躍できる研究者・技術者・教育者を育成することを目的とする。

3 特色

- (1) 所属学科のカリキュラムに加え，本コース開講科目を副専攻的に履修する。
- (2) 個人あるいはグループによる「先取りプロジェクト研究」を行う。
- (3) 自主研究・自主ゼミについては，本コースが支援を行い，「先取りプロジェクト研究」の取り組みとして認める。学修・自主研究・自主ゼミに際し，アカデミックアドバイザー（教員）の助言及びティーチングアシスタント（大学院生）の支援を受けることができ，研究機材の利用が可能である。
- (4) 希望した場合，3年次に先取りプロジェクト研究を目的とした研究室の教員の指導を受けることができる。ただし，希望研究室の教員の承諾を必要とする。
- (5) 所定の修了要件を満たした者には，卒業時に「コース修了証」を授与する。

4 コース履修要件

理学部学生のうち，本コースへの登録を申請し，2年次進級時の選抜により許可された者とする。

5 選抜方法

2年次進級時に，書類審査，面接及び1年次の学業成績により選抜する。

6 コース開講科目及びコース修了要件

コース開講科目	単位数	コース修了要件		対象年次
		単位数	必・選	
先取りプロジェクト研究	5	5	必修	3年次
フロンティアサイエンティストリテラシー	1	1	必修	2年次
先端科学実習	1	1	必修	2年次
修了要件単位数合計		7		

7 卒業要件における単位の取扱い

「先端科学実習」「フロンティアサイエンティストリテラシー」の修得単位は，専門科目（関連）共通科目として所属学科の卒業要件に算入できる。
「先取りプロジェクト研究」は，卒業要件には算入しないものとする。

14. 授業, 単位, 履修, 試験等について

授業, 単位

授業は、講義、演習、実験、実習のいずれかの方法によりまたはこれらの二以上の併用により行われます。

授業科目の1単位当たりの学修は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成されることを標準とし、授業内容の方法による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数が定められています。

専門教育科目（1単位）

授業の種類, 方法	授業による学修時間	授業時間外の学修時間
講義	15時間	30時間
演習	15時間又は30時間	30時間又は15時間
実験, 実習	30時間又は45時間	15時間又は0時間
課題研究	必要な学修等を考慮して、単位数を定める。	

履修登録

岡山大学学則、理学部規程及び単位修得要領等に従って、各自履修計画を立て、各年度ごとの授業時間割表・シラバス等により、履修を希望するすべての授業科目を各学期の始めに履修登録します。(理学部学生を対象としていない他学部開講科目の履修については、授業担当教員の許可を受けること。) 履修登録は指定された期間中に学生が大学内のパソコンを操作してコンピュータ登録します。(履修登録のない科目の単位修得は認められません。)

また、履修登録の受付期間以外は、原則として履修科目の変更(追加登録・取り消し)は認められません。集中講義の履修登録については掲示等によりその都度指示します。

試験(理学部専門教育科目)

- 1 試験時期
各授業担当教員の指示によって行われます。
- 2 受験心得
受験にあたっては、別に示される受験心得や各授業担当教員の指示に従って受験すること。
- 3 受験延期
病気その他やむを得ない理由により試験の受験延期を希望する場合は、「受験延期願(所定用紙)」に、医師の診断書等その理由を証明する書類等を添付して、試験日前日までに(やむを得ない場合は可能となった後直ちに)理学部事務室教務学生担当へ提出してください。
受験延期願を提出した者は、各授業担当教員の判断により追試験が実施されることがあります。
(教養教育科目は履修の手引を参照のこと。)

単位修得

単位の修得は、授業の2/3以上出席したものにつき、試験、報告書及び平素の成績を考慮して各授業担当教員が判定します。

成績評価

評語	GP	評点	基準等
A+	4	90点~100点	合格(単位を授与する。)
A	3	80点~89点	
B	2	70点~79点	
C	1	60点~69点	
F	0	0点~59点	不合格(単位を授与しない。)

なお、授業科目によっては、「修了」または「認定」の標語をもって合格の評価とすることがあります。

理学部成績評価の基準

1. 成績評価は授業の教育目標に対する学習者の到達度をみるものであり、その目標と評価の方法は可能な限り具体的にシラバスに明記する。
2. 成績評価は、授業の形態（講義、実験、実習、演習、実技等）と内容に対応した適切で多面的な方法により行い、期末筆記試験などの単一手段のみによる一面的評価に偏重しないようにする。
3. 成績評価には、授業時間外の自己学習を通じて得られた学習成果が適切に反映されるように努める。
4. 同一科目について複数のクラスが開講される場合には、できる限り評価基準を統一し、担当教員による評価の個人差が生じないようにする。また、異なる科目の成績評価においても担当教員による著しい個人差が生じないように努める。
5. 成績評価の基準や方法に関する学生からの質問や疑問には適切に対応する。

成績通知

履修登録科目の成績は、前期末及び後期末に公開（各自がコンピュータで確認）します。
なお、岡山大学では、保護者との連携により、学生に適切な修学指導を行うことを目的として、毎年度3月（入学した年度のみ9月と3月）に保護者の方へ成績を通知します。

他大学等の授業科目の履修について

他大学等の授業科目の履修が理学部で認められた場合は、履修して修得した単位が本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができます。

他大学の授業科目の履修を希望する者は、所定の手続により履修を申し出ること。

（「岡山大学理学部における他の大学又は短期大学の専門教育科目履修に関する内規」を参照）

その他

学生に関係あることは、事務室教務学生担当又は各学科の掲示板で連絡するので、見落とさないよう注意すること。

試験における不正行為の取扱い

〔平成16年5月19日
教育研究評議会決定〕
改正 平成23年 2月16日

- 1 この取扱いは、岡山大学学生に係る懲戒等に関する申合せ第20項の規定に基づき、岡山大学が実施する試験において不正行為を行った学生の取扱いについて定めるものである。
- 2 退学又は停学は、次に掲げる不正行為を行った場合とする。
退 学
 - 一 代理（替玉）受験をしたり、させた場合
 - 二 その他特に悪質な不正行為をした場合停 学
 - 一 許可されていないノート及び参考書等を参照した場合
 - 二 答案を交換した場合
 - 三 その他不正行為を行った場合
- 3 不正行為を行った者には、直ちに解答を止めさせ、試験終了まで当該試験室で待機させる。
ただし、試験実施上、他の受験者に迷惑を及ぼすと判断される場合は、退室を命じ、試験終了まで、所属学部等の教務担当事務で待機させる。
- 4 不正行為が判明した場合、当該学生の所属する学部長（研究科長）は、当該学生に対し直ちに謹慎を命ずる。
- 5 当該学生が所属する学部（研究科）は、不正行為者の動機、手段等について詳細に調査し、処分の程度を慎重に審議する。
- 6 不正行為が判明した場合は、当該行為が行われた時点において既に単位が認定されている授業科目を除いて、当該学生が当該学期に履修登録している全ての授業科目（通年で開講する授業科目を含む。）の単位は認定しない。
- 7 共謀の不正行為にあつては、依頼者及び被依頼者とも原則として同一の処分とする。
- 8 停学期間は、3月を超えるものとし、始期は不正行為のあった日の翌日とする。
- 9 第3項の取扱いは、不正行為を行おうとした場合又は試験室において監督者の注意若しくは指示に従わない場合に準用する。
- 10 前項の場合における当該学生の当該授業科目の単位は認定しない。
- 11 この取扱いは、平成23年4月1日から適用する。

《 受 験 心 得 》

受験にあたっては、次の各事項に留意してください。

- ① 受験する学生は特別の指示がない限り、試験開始時刻の5分前までに所定の教室に入室を完了すること。
- ② 監督者が指定した座席において受験すること。
- ③ 受験中は必ず学生証を机の上に置くこと。
ただし、学生証を紛失又は忘れた場合は、監督者に申し出て、その指示に従うこと。
- ④ 受験中、机の上に置くことができるのは、学生証、筆記用具及びその他特に許可されたものに限る。それ以外の携行品はカバン等に入れて、座席の下に置くこと。また、机の棚板（物入れ）には何も置かないこと。
- ⑤ 携帯電話や音の出る機器は、必ず電源を切っておくこと。
- ⑥ 解答用紙には、所属学部名、入学年、番号及び氏名等の必要事項を必ず万年筆又はボールペンで記入すること。
- ⑦ 試験開始後20分を経過するまでは退室できない。
- ⑧ 試験開始後20分を経過した場合は入室できない。
- ⑨ 答案用紙は、特に指定がない場合、教卓上に提出するか、又は監督者に直接手渡すこと。自己の机の上に置いて退出すると当該授業科目の単位は認定しない。
- ⑩ 受験にあたっては、厳正な態度で臨み、誤解を招くような態度や不正行為は厳に慎むこと。

なお、監督者の指示に従わない者、及び不正行為があると認められた者に対しては、学則第58条（大学院学則第49条）により厳重な懲戒処分を行う。

また、不正行為を行った場合は、当該行為が行われた時点において既に単位が認定されている授業科目を除いて、当該学期に履修登録している全ての授業科目（通年で開講する授業科目を含む。）の単位は認定しない。

15. 外部検定試験等による単位認定について

※ 別表第1及び別表第3により、単位認定を希望する場合は、理学部事務室教務学生担当へ申し出てください。

別表第1（平成25年度以降入学者）

外国語の種類別	単位認定の対象とする外部検定試験	単位認定基準	単位認定の対象とする授業科目の範囲	認定可能な単位数の上限
英語	TOEIC 又は TOEIC IP	800点以上	総合英語 5	3単位まで
	----- 実用英語技能検定（英検）	1級		
	----- 国際連合公用語英語検定試験（国連英検）	A級		
	----- TOEFL PBT 又は TOEFL ITP	570点以上		
	----- TOEFL iBT	89点以上		
	TOEIC 又は TOEIC IP	700点以上	総合英語 5	2単位まで
	----- TOEFL PBT 又は TOEFL ITP	540点以上		
	----- TOEFL iBT	74点以上		
	TOEIC 又は TOEIC IP	650点以上	総合英語 5	1単位まで
	----- 実用英語技能検定（英検）	準1級		
	----- 国際連合公用語英語検定試験（国連英検）	B級		
	----- TOEFL PBT 又は TOEFL ITP	520点以上		
----- TOEFL iBT	68点以上			
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験（独検）	3級以上	ドイツ語初級Ⅰ（文法） ドイツ語初級Ⅰ（読本） ドイツ語初級Ⅱ（文法） ドイツ語初級Ⅱ（読本） ドイツ語初級Ⅰ（総合） ドイツ語初級Ⅱ（総合） ドイツ語中級	8単位まで
		4級	ドイツ語初級Ⅰ（文法） ドイツ語初級Ⅰ（読本） ドイツ語初級Ⅱ（文法） ドイツ語初級Ⅱ（読本） ドイツ語初級Ⅰ（総合）	4単位まで
		5級	ドイツ語初級Ⅰ（文法） ドイツ語初級Ⅰ（読本）	2単位まで
フランス語	実用フランス語技能検定試験（仏検）	3級以上	フランス語初級Ⅰ（文法） フランス語初級Ⅰ（読本） フランス語初級Ⅱ（文法） フランス語初級Ⅱ（読本） フランス語初級Ⅰ（総合） フランス語初級Ⅱ（総合） フランス語中級	8単位まで
		4級	フランス語初級Ⅰ（文法） フランス語初級Ⅰ（読本） フランス語初級Ⅱ（文法） フランス語初級Ⅱ（読本） フランス語初級Ⅰ（総合）	4単位まで
		5級	フランス語初級Ⅰ（文法） フランス語初級Ⅰ（読本）	2単位まで
中国語	漢語水平考試（HSK） （筆記試験のみ）	3級以上	中国語初級Ⅰ（文法） 中国語初級Ⅰ（読本） 中国語初級Ⅱ（文法） 中国語初級Ⅱ（読本） 中国語初級Ⅰ（総合） 中国語初級Ⅱ（総合） 中国語中級	8単位まで
		2級	中国語初級Ⅰ（文法） 中国語初級Ⅰ（読本） 中国語初級Ⅱ（文法） 中国語初級Ⅱ（読本） 中国語初級Ⅰ（総合）	4単位まで
		1級	中国語初級Ⅰ（文法） 中国語初級Ⅰ（読本）	2単位まで

韓国語	韓国語能力試験	2級以上	韓国語初級Ⅰ（文法） 韓国語初級Ⅰ（読本） 韓国語初級Ⅱ（文法） 韓国語初級Ⅱ（読本） 韓国語初級Ⅰ（総合） 韓国語初級Ⅱ（総合） 韓国語中級	8単位まで
		1級	韓国語初級Ⅰ（文法） 韓国語初級Ⅰ（読本） 韓国語初級Ⅱ（文法） 韓国語初級Ⅱ（読本） 韓国語初級Ⅰ（総合）	4単位まで
スペイン語	スペイン語技能検定	4級以上	スペイン語初級Ⅰ（総合） スペイン語初級Ⅱ（総合） スペイン語中級	8単位まで
		5級	スペイン語初級Ⅰ（総合） スペイン語初級Ⅱ（総合）	4単位まで
イタリア語	実用イタリア語検定	3級以上	イタリア語初級Ⅰ（文法） イタリア語初級Ⅰ（読本） イタリア語初級Ⅱ（文法） イタリア語初級Ⅱ（読本） イタリア語中級	8単位まで
		4級	イタリア語初級Ⅰ（文法） イタリア語初級Ⅰ（読本） イタリア語初級Ⅱ（文法） イタリア語初級Ⅱ（読本）	4単位まで
		5級	イタリア語初級Ⅰ（文法） イタリア語初級Ⅰ（読本）	2単位まで

- 備考 1 成績評価の評語は、「認定」とする。
2 一の授業科目について、同一科目名の繰り返し履修が可能な授業科目を除いて、重複して単位認定を行うことはできない。
3 既に単位を修得済みの授業科目について、同一科目名の繰り返し履修が可能な授業科目を除いて、重複して単位認定を行うことはできない。

別表第3（平成25年度以降入学者）

海外語学研修の実施機関	単位認定基準	単位認定の対象とする授業科目の範囲	認定可能な単位数の上限
南オレゴン大学	南オレゴン大学の成績評価がD（下級）以上	・教養教育科目外国語科目の英語科目のうち、総合英語1～5を除く全ての授業科目 ・専門教育科目のうち、各学部が認める授業科目	2単位まで
アデレード大学	アデレード大学の成績評価がD以上	・教養教育科目外国語科目の英語科目のうち、総合英語1～5を除く全ての授業科目 ・専門教育科目のうち、各学部が認める授業科目	4単位まで
エクセター大学（INTO） エクセター大学	エクセター大学（INTO エクセター大学）の全ての成績評価項目が Satisfactory 以上で、かつ、最終試験結果が60%以上	・教養教育科目外国語科目の英語科目のうち、総合英語1～5を除く全ての授業科目 ・専門教育科目のうち、各学部が認める授業科目	4単位まで
ルール大学ポーfum	ルール大学ポーfumの成績評価が60点以上	・ドイツ語中級 ・専門教育科目のうち、各学部が認める授業科目	4単位まで
成均館大専校	成均館大専校の初級1クラスにおいて、成績評価が60点以上	韓国語初級Ⅱ（文法） 韓国語初級Ⅱ（読本）	4単位まで
	成均館大専校の初級2クラス以上のクラスにおいて、成績評価が60点以上	韓国語中級 韓国語初級Ⅱ（総合）	4単位まで
上海理工大学	上海理工大学の成績評価が60点以上	中国語中級	2単位まで
吉林大学	吉林大学の初級1クラスにおいて、成績評価が60点以上	中国語初級Ⅱ（文法） 中国語初級Ⅱ（読本）	4単位まで
	吉林大学の初級2クラス以上のクラスにおいて、成績評価が60点以上	中国語中級 中国語初級Ⅱ（総合）	4単位まで
首都師範大学	首都師範大学の初級1クラスにおいて、成績評価が60点以上	中国語初級Ⅱ（文法） 中国語初級Ⅱ（読本）	4単位まで
	首都師範大学の初級2クラス以上のクラスにおいて、成績評価が60点以上	中国語中級 中国語初級Ⅱ（総合）	4単位まで

- 備考 1 成績評価の評語は、「認定」とする。
2 一の授業科目について、同一科目名の繰り返し履修が可能な授業科目を除いて、重複して単位認定を行うことはできない。
3 既に単位を修得済みの授業科目について、同一科目名の繰り返し履修が可能な授業科目を除いて、重複して単位認定を行うことはできない。

16. インターンシップの履修について

理学部就業体験実習（インターンシップ）の概要

趣旨・目的

インターンシップ制度とは、大学で修得した学問と現場での実践との融合を図り、基礎科学とその応用についての理解を深めることを目的として、理学部の教育課程に基づき理学部の学生が取りまとめ団体の会員企業等において就業体験を行うものです。

受入企業の決定方法

インターンシップ制度登録企業等（受入先企業等）については、取りまとめ団体から理学部へ予め通知されます。

インターンシップ希望者の受入企業等については、取りまとめ団体が受入窓口となり会員企業等と調整のうえ受入先企業等を決定し、理学部へ通知されます。

インターンシップ期間等

インターンシップ期間は、原則として2週間です。

この期間中の学生に対する賃金等は、基本的には支払われません。

成績評価

学生のインターンシップ実施中の評価は受入先企業等が行い、インターンシップ終了後理学部へ報告するものとします。

理学部は、企業等からの報告に基づき単位の認定に伴う成績評価を行います。

事故対策

インターンシップ希望の学生は、賠償責任保険、傷害保険等へ加入してください。

取りまとめ団体においても、受入先企業等内での実習中の事故及び傷害に対処するため、受入企業等間の統一的な対応策を講じます。

守秘義務

インターンシップ実施中に学生が知り得た企業等内の情報について、受入先企業等が当該学生と個別に対応します。

授業科目	就業体験実習（インターンシップ）
期 間	夏期休業中2週間
履修時期	学部2・3年次

履修～実習までの手続の流れ

1 学生への周知

理学部事務室教務学生担当窓口でインターンシップ登録企業等のリストを案内

2 申 込

希望する企業等を選び、理学部事務室教務学生担当に申し込む。

（受入人数等の制限のため、希望者から選抜を行うこともある。）

3 結果通知

理学部 → 企業 受入依頼書を送付

企 業 → 理学部 許可者のみ受入承諾書を送付

理学部 → 学生 結果通知

4 事前指導

所属学科学年担任から各学生にガイダンスを行う。

5 実 習

事前に実習先の企業研究を行い、実習日程等を確認しておく。

実習に際しては、実習記録を作成し、企業の担当者から検印を受領する。

6 実習後

実習期間終了後、インターンシップ事後報告書及び実習記録を企業担当者へ提出する。